

1 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

親は子どもに対して時に厳しく接しなければならぬ。(1) **オ**、子どもは甘えを捨てて自立することはできないであろう。(2) **イ**、最近の親は子どもに対して、

(3) **ア** 友人にでも接するかのような親しげな態度ばかりを取っており、私などはとても見てはおられない。(4) **ウ** 最近の親は子どもを甘やかすのだろうか。よくいえば「やさしさ」ということなのであるが、この「やさしさ」はいったい誰に向けた「やさしさ」なのであるか。私はこう思う。最近の親は子どもに対して「やさしい」のではない。実のところ彼らは子どもに嫌われたくないだけなのだ。厳しいことを言って子どもに嫌われることを恐れているのだ。(5) **エ**、彼らの「やさしさ」は子どもに向けてのものではなく、何の事はない親自身に向けた「やさしさ」なのである。

- ア まるで イ だが ウ どうして エ つまり オ さもなければ
- (1) オ 「そうでなければ」という意味 (2) イ (逆の内容)
- (3) ア (類似している)
- (4) ウ (理由を考える) (5) エ (結論をまとめる)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～クから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

梅は長らく庭木、盆栽として観賞され、その実は食べ物や薬として利用されてきました。一方で梅は文化的側面でも古くから日本人と関わりを持ってきました。(6) **カ** 『万葉集』では梅は一一八首に歌われ、これは桜の約三倍にあたり、植物のうち最多である萩につぐ多さです。天平二年(七三〇年)正月十三日、大宰帥(だざいのそち)であった大伴旅人が客人を集めて催した宴で詠まれた三十二首の梅の花の歌も『万葉集』(巻五)に載せられています。(7) **ク** この三十二首の序文にある「初春の令月にして、気淑(よ)く風和らぎ」(初春のよい月で、空気は清く風はやわらかにそよぐ)という表現が新元号「令



和」の出典となっています。

(8) **キ**

菅原道真が延喜元年(九〇一年)に九州の大宰府(だ

ざいふ)へ流された際、庭の梅に「東風(こち)吹かばにほひおこせよ梅の花あるじなしとて春な忘れそ」という惜別の歌を詠んだことも有名です。この歌の上の句「東風吹かばにほひおこせよ梅の花」は「もし春になって東風が吹いたなら、その香りを送ってくれ梅の花よ」という意味で、下の句「あるじなしとて春な忘れそ」は「主人である私がないからといって春を忘れるな」という意味です。

(9) **ク**

、こんなふうに日本人に愛されてきた梅ですが、梅に被害を及ぼす病気は数多く存在します。平成二十一年、東京都青梅市では梅がプラムポックスウイルスという病気に感染してしまい、国による緊急防除対策が行われた結果、市内全域で四万本以上が伐採されてしまったのは(10) **ケ** 残念なことでした。

か たとえば キ また ク ちなみに ケ 大変 コ ところで

(6) カ (文化的側面の例をあげる)

(7) ク (万葉集と梅に関連する内容を続けて補う)

(8) キ (文化的側面の例を並べる)

(9) コ (文化的側面から病気へ話題を転換)

(10) ケ (強調)

*コを適切な場所に使いましょう。